

創立80周年を迎えて

寒地土木研究所は、昭和12年8月、豊平川右岸の堤防が完成して廃川敷地となった現在地に、内務省北海道庁土木部試験室として設立されました。以来、一貫して北海道における河川・道路・港湾・農業・水産行政の推進に関わる研究開発を通して、積雪寒冷地における土木技術の向上や北海道総合開発の推進に貢献して参りました。

平成18年4月には独立行政法人土木研究所と統合し、全国の土木技術の発展に貢献する研究機関として研究及び成果普及の範囲を広げて参りました。また平成20年4月には、北海道開発局が実施していた技術開発関連業務の一部も担うこととなりました。

平成29年8月、当研究所は創立80周年を迎えました。これを機に、設立時からの特徴である現場に密着した土木技術の研究機関として、更なる研究開発の推進と研究開発成果の広範な普及・指導に努めて参ります。

現在、人口減少・高齢化、自然災害の激甚化並びに社会インフラの老朽化など緊急的かつ難しい課題が山積しています。今後も、北の暮らしを支え人々が安心して豊かな生活を送るため、寒地土木研究所は、社会的要請を的確に捉え、短期・長期の視点から研究開発に取り組むとともに、寒地土木技術の発信基地としてその役割を発揮していく所存ですので、関係各位の一層のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

平成29年8月25日



国立研究開発法人 土木研究所
寒地土木研究所長
鎌田 照章